

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|----------|--|
| 事業所番号 | 4072600713 | | |
| 法人名 | 有限会社 ラビット | | |
| 事業所名 | グループホーム つるとかめ | ユニット名 つる | |
| 所在地 | 福岡県行橋市東大橋1-3-10 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年11月1日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

つるとかめでは、前回の評価時と同じように、通常的人员配置の他に、看護師 管理者 計画作成担当者が勤務する体制をとっており、手厚い介護や個別援助などしっかり行えていると思っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php |
|----------|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周防灘に近い田園風景の中に広大な敷地を有し、近隣の新興住宅地には建物も増え、開設して10年目を迎える中で少しずつ景色も変化している。室内空間もゆとりある広さが確保されており、豊かな生活環境の中にある事業所である。地域への働きかけを積み重ねてきたことで、町内会総会への出席や隣組の活動参加、区長による情報提供や連携等、日常的につながりがあり、地域の拠点としての認識も深まっている。日常の暮らしは、身体機能の維持、活用に向けた積極的な働きかけが行なわれており、長期に入居されている方も多く、「普通の生活」の継続に向けて、ゆとりある人員配置と安定している職員体制を活かし、日々の心身の変化に向き合っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------|---------|------------|
| 評価機関名 | 株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号 | | |
| 訪問調査日 | 平成25年11月26日 | 評価結果確定日 | 平成26年1月29日 |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | 68 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33) | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 64 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) | | |

| 自己評価および外部評価結果 | | | | |
|-------------------|--------|---|--|--|
| 自 己 | 外 部 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 |
| | | | 実践状況 | 実践状況 |
| I.理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 住み慣れた地域で自分のリズムで普通の暮らしを送るを理念にあげおり、地域とのつながりを重視したサービスを行っている。 | 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念を掲げ、ミーティング等にて振り返りや確認を行なっている。また、個人目標をロッカーに掲示し、モチベーションの確保や、全体でのサービス向上に結び付けている。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している | 日常的に区長と交流があり、地域の行事や情報を受けている。 | 町内会の総会参加や隣組の活動に参加し、地域住民としてのつながりをもっている。区長より花運動の案内を受け、敷地内で花を育てたり、災害対策について協議を行い、アドバイスを得ている。また、隣接する同法人施設との交流も日常的に行われている。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 近隣の方の介護相談や入居者様の家族の知人などの介護相談を受けている。 | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議の出席者は、市職員、高齢者支援センター職員、区長、民生委員、家族、利用者、施設職員の参加があり、それぞれ意見、要望を述べてもらい、サービスの向上に活かしている。 | 運営推進会議には、家族、区長、民生委員、行橋市担当者、高齢者相談支援センター職員の出席を得るとともに、複数の入居者の方々の参加を得ており、定期開催されている。中庭での昼食会を催したり、事業所の実情や災害対策について、忌憚のない意見交換が行われており、運営への反映に努めている。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に参加してもらったり、市のグループホーム情報交換会に出席し情報交換を行っている。 | 運営推進会議には、行橋市担当者及び高齢者相談支援センター職員の出席を得ている。また、市主催のグループホーム情報交換会が今年度より発足しており、情報共有や意見交換を通じて、顔の見える関係性の中で協力関係を築けるよう取り組んでいる。 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員一人一人が拘束禁止を理解し援助を行っている。 | 内部研修にて取り上げ、言葉や対応による抑制についても意識を高めている。また、行政担当者も含む協議の中で、玄関の施錠についても、アドバイスを頂いている。居室環境作りへの配慮等、個別の対応が行われている。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | パンフレット マニュアルを理解し、虐待や拘束のない援助を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | マニュアルを配布し全職員が理解できるよう支援している。 | 新たに発足したグループホーム情報交換会の中で、権利擁護に関する研修が予定されている。現在、制度を活用している方もおり、資料の整備や職員へマニュアルを配布する等、職員の理解を深めるよう努めている。今後は、運営推進会議等にて、関係機関による情報提供等の機会作りについても検討していくことが期待されます。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 十分な説明を行い、理解、納得してもらい契約を交わしている。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者さんやその家族と気さくに話が出来る関係を築き、意見や要望をしっかりと聞けるようにしている。運営推進会議でも意見を聞きとり入れるようにしている。 | 運営推進会議には、複数の入居者、及び家族の参加を得ており、議事録には、それぞれのコメントも残されている。日頃から、コミュニケーションの充実を図り、意見の言いやすい関係作りに取り組みと共に、担当者による書信を送り、日常の様子を伝えている。手書きの文章は温かみがあり、時には入居者の方が直筆で近況を知らせている。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は職員から話しかけやすい関係を築いている。 | 各ユニットもしくは全体でのミーティングを毎月実施し、不参加の場合には議事録にて周知を図っている。職員体制は安定しており、風通しの良い環境作りを大切にしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 出来る限り、働きやすい環境を作っている。勤務状況や能力を考慮し給料に調整給を足している。 | | |
| 13 | (9) | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 年齢や性別を理由に採用対象から排除していない。 | ハローワークを通じて募集を行い、人柄ややる気を重視し、年齢や性別、経験等による排除は行っていない。現在、幅広い年代の男女職員が勤務しており、安定している状況である。季節行事の飾りつけ等、環境整備に職員の自発的な取り組みも見られる。 | |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 人権に対するマニュアルを配布し理解するようになっている。 | マニュアルの配布や、内部での勉強会を通じて、職員の意識向上に努めている。今後は、情報交換会の研修にて取り上げていく予定としている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修に参加している。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 京築グループホーム連絡協議会 行橋市グループホーム情報交換会に参加し他事業所との交流や情報の共有を行っている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | コミュニケーションをしっかりと、本人の状態やニーズを把握するように努めている。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | しっかり話を聞き対応している。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 家族には介護保険の仕組み、サービスの種類を説明し相談にのっている。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人の話をしっかり聞き、より良い人間関係が築けるよう努力している。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の面会の時、状態をしっかり説明し、家族の意見も取り入れ、援助している。 | | |
| 22 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | かかりつけ医の継続受診や馴染みの場所へ行ける様支援している。 | 日常の会話の中で、これまでの暮らしや馴染みの関係性について情報を得ながら、自宅に立ち寄ったり、駅前商店街をドライブする等の支援を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている | 日中はほとんどリビングで過ごしてもらい、交 流が図れるように支援している。 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の 経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去された家族の方とも交流がり、相談をう けたり、助言をうけたりしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている | 一人一人のニーズを把握し意向に沿えるよう 努力している。 | 職員体制は安定しており、馴染みの関係性の中 で、思いや把握に努めている。夜間記録も充実し ており、1対1となる状況の中で、細やかに情報 を収集している。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている | 入居時アセスメントをしっかり行い、生活歴を 把握するよう努力している。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている | 状態観察や記録をしっかり行い状態を把握 出来る様にしている。 | | |
| 28 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、そ れぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した 介護計画を作成している | 担当者会議や家族、本人の面会時、本人の 状態やニーズを検討し、介護計画を作成して いる。 | 本人、家族の参加する担当者会議を開催し、個 別性のある介護計画を作成している。機能維 持、活用に向けた働きかけも明確となっており、 本人本位の介護計画作成に努めている。アセス メントやモニタリングの充実に向けて、職員個々 の積極的な関わりが期待されます。 | |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている | 状態観察や記録をしっかり行い、プラン作成 の参考にしてている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 状態の変化やニーズの変化があれば、その都度検討している。 | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 消防署に協力を得て消防訓練を行っている。また 地元区長からも災害時は地域で協力してもらえるよう話をしている。 | | |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医への定期受診や往診など行えるように支援している。 | これまでのかかりつけ医の継続はもとより、協力医療機関との連携による訪問診療体制も整備されており、入居時に意向を確認している。受診の際は、家族との連携を図り、車椅子の方の移動手段の確保等に配慮を行なっている。随時の訪問歯科診療も可能である。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職員は、利用者さんの状態を常に観察し異常と感じた場合、すぐに看護師や主治医と連絡をとり、適切に対応している。 | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院された利用者さんには、頻繁に面会に行き、病院職員より情報を頂ける関係を築いているとおもっている。 | | |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居契約する時から、終末期にこの施設で対応出来る事を説明し、出来る限り本人、家族のニーズに対応する様にしている。 | 入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について、指針をもとに説明を行い、意向を確認している。これまでに、看取りも経験しており、状況の変化に伴い、家族や医師を交えた話し合いを重ね、方針の共有に努めている。 | |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急対応マニュアルを準備しており、それに沿って対応出来るようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災訓練は定期的に行い、避難方法は理解していると思うも、その他、水害や地震の訓練は行っていない。災害時は消防の応援や近隣の住民の協力を仰ぎたい。 | 避難訓練を実施する際には、水消火器を用いた消化訓練等を行っている。消防署が近接していることや、地域住民である職員も多い。また、運営推進会議等を通じて、区長をはじめ、忌憚のない意見交換が行われ、災害時の協力についても快く応じて頂いており、心強い。 | 職員数の少ない夜間を想定した訓練実施や、隣接する同法人施設との連携を実際に確認する機会を持つ等、今後の取り組みの充実が期待されます。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人一人丁寧に優しく、人格を尊重した対応を行えていると思っている。 | 勉強会やミーティングの中で、振り返りや確認を行ないながら、言葉かけや対応について、意識を高めている。排泄ケアや入浴時の対応については特に留意し、人格の尊重や羞恥心への配慮に努めている。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者さんが分りやすい様に声かけを行い、自己決定できるように支援している。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 自分のリズムに合わせて生活出来るように支援している。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご家族が持ってこられた衣類を着てもらっている。 | | |
| 42 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 能力のある利用者さんには出来るだけ手伝ってもらっている。 | 2ユニットそれぞれのメニューは異なり、嗜好や個別の状態に応じた食事の提供に努めている。畑での野菜作りを共に行い、収穫の喜びを共に味わう機会もある。また、外食レクリエーションとして、回転寿司やファミリーレストラン、カラオケボックス等に出かけ、普段とは違う雰囲気を楽しむ機会を持っている。 | |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分摂取量や食事摂取量を記録し管理している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、利用者さん一人一人、口腔ケアを行い、口腔内の清潔を保っていると思っている。 | | |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表をつけ、自分からトイレに行く方は、さりげない声かけで誘導し、訴えの無い方は時間おきに便座に座ってもらい、出来るだけトイレでの排泄を行っている。 | 日々の排泄状況を確認し、日中は出来る限りトイレでの排泄が可能となるよう声かけや誘導を行っている。また、立位、座位の保持等、日常の中で機能の維持や活用に向けたアプローチを行っている。夜間については個別の状況を検討し、支援を行っている。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便チェック表で排便状況を把握し、食事の工夫や下剤の調整を行い、便秘予防に努めている。 | | |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴の曜日や時間は施設の時間で入浴してもらっている。入浴前はバイタル測定を行い、事故が内容に注意している。 | 毎日、入浴準備を行い、希望や体調、状況等に応じて、柔軟な対応に努めている。希望があれば、毎日の入浴も可能である。拒否される方にも、タイミングや声かけの工夫を行ない、無理強いとならないよう心掛けている。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中はほとんどリビングで過ごしてもらい、レクや活動を支援し夜間しっかり眠れるように支援している。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 基本情報に主な病気、服薬情報を記載し、どのような薬を飲んでいるか、すぐに分かるようにしている。 | | |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | コミュニケーションをしっかりと、本人の状態やニーズを把握するように努めている。出来る限り本人の希望に添える生活が送れるよう支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | その日の気分によって外出は出来ないも、近隣の散歩は行っている。また月に一度は外出レクで公園や商業施設に行き、気分転換を図っている。 | 希望や天候等に応じて、周辺の散歩や中庭での外気浴や畑作り等を支援している。毎月、外出レクリエーションが企画され、平尾台等へのドライブや大型商業施設に出かけている。また、外食レクリエーションとしてカラオケボックスや回転寿司に出かける機会もある。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本施設では、利用者さんにお金は持たせていません。必要な物は施設で建て替えて購入したり、ご家族に持ってきてもらっています。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙を書く能力がある方は、レターセットを購入し手紙を送った事はある。電話はこちらからかけることはないも、かかってきた電話はいつでもとりついでいる。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 建物の周りでは騒音は殆どない。温度調整も利用者さんに合わせた温度にし、光はブラインドで細かい調整を行っている。 | 室内空間はゆとりある広さが確保され、開口部が大きくとられ採光も良く、窓からは周囲の田園風景や自家菜園の様子も見え、開放的な空間となっている。写真の飾り付けも工夫されており、来訪者の目を引く、微笑ましいものであった。行事の飾り付けや季節の作品等も、職員のアイデアが活かされている。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファやテーブル位置を工夫しゆっくり過ごせるようにしている。 | | |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時、部屋には何も無い状態である。自宅で使用していたベットやタンスなど馴染みの物を持ってきて使用してもらっている。 | ソファや椅子、テーブル等、くつろぎの家具が持ち込まれている居室が多く、家族の写真や手作りの作品等が飾られ、安心して過ごせるよう配慮されている。リスク軽減のためのマットが敷かれている居室もあり、個別の状況に応じた環境作りへの配慮が行われている。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室の入り口には名札を付け、個々の部屋が分りやすい様に工夫している。掃除や配膳の手伝い出来る方は手伝ってもらい、自立支援をおこなっている。 | | |